

# 町の財政健全化度を公表します

町の「財政の健全化度」を表す比率の算定と公表が、法律で義務づけられていることから、平成29年度決算で算定された結果について、お知らせします。

平成29年度決算による算定結果は、各比率とも、早期健全化基準（イエローカード）や財政再生基準（レッドカード）を下回りました。万が一、イエローカードなどの基準に達してしまった場合は、国から危険な状況にあると判断され、財政健全化計画などを策定し、事務事業の大幅な見直しなど、健全化に向けた取り組みを進めなければなりません。

地方債（借金）残高の増加や地方交付税（次ページ※）参照の減少などにより、今後は、実質公債費比率や将来負担比率の上昇が見込まれますが、イエローカードなどの基準に陥ることがないよう、将来を見据え、持続可能な財政運営に努めていきます。

## ① 実質赤字比率

一般会計の財政運営の深刻度を示す比率です。平成29年度決算も黒字になりましたので、比率は算定されませんでした。

## ② 連結実質赤字比率

一般会計や特別会計など、下川町の全会計の財政運営の深刻度を示す比率です。実質赤字比率同様、黒字になりましたので、比率は算定されませんでした。

## ③ 実質公債費比率

資金繰りの危険度を示す比率で、地方債（借金）の返済額の大さを表したものです。平成29年度決算では、3・6パーセントとなりました。

## ④ 将来負担比率

今後の財政を圧迫する可能性を示す比率で、町が将来支払っていく可能性のある負担の程度を表したものです。平成29年度決算では、37・2パーセントとなりました。

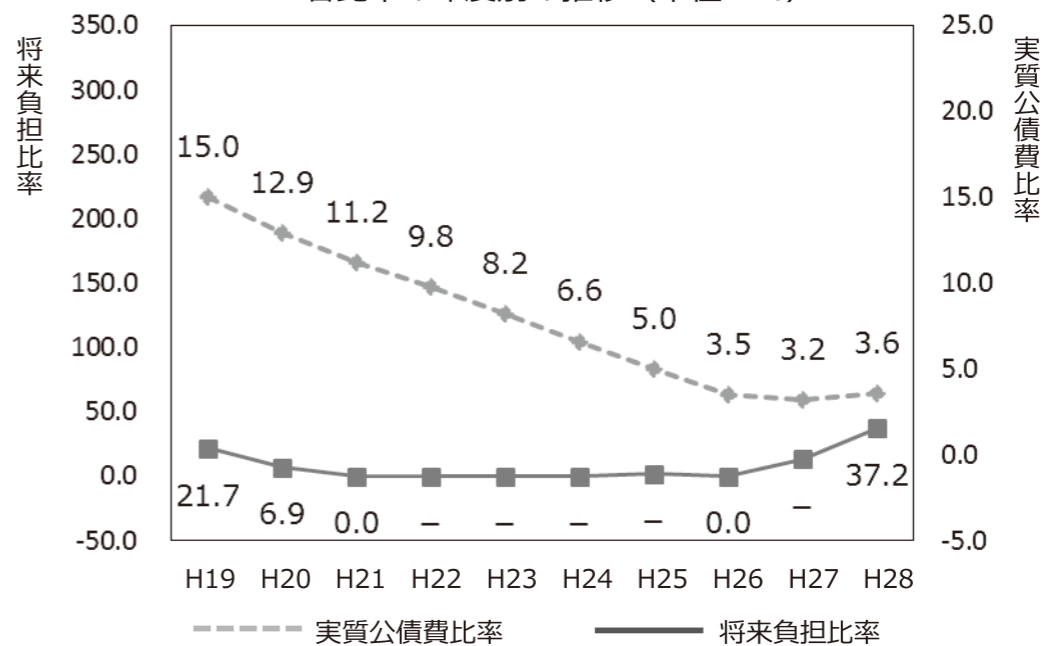
## ⑤ 資金不足比率

公営企業の経営の深刻度を示す比率です。平成29年度も全ての公営企業で黒字になりましたので、資金不足は発生しませんでしたので、比率は算定されませんでした。

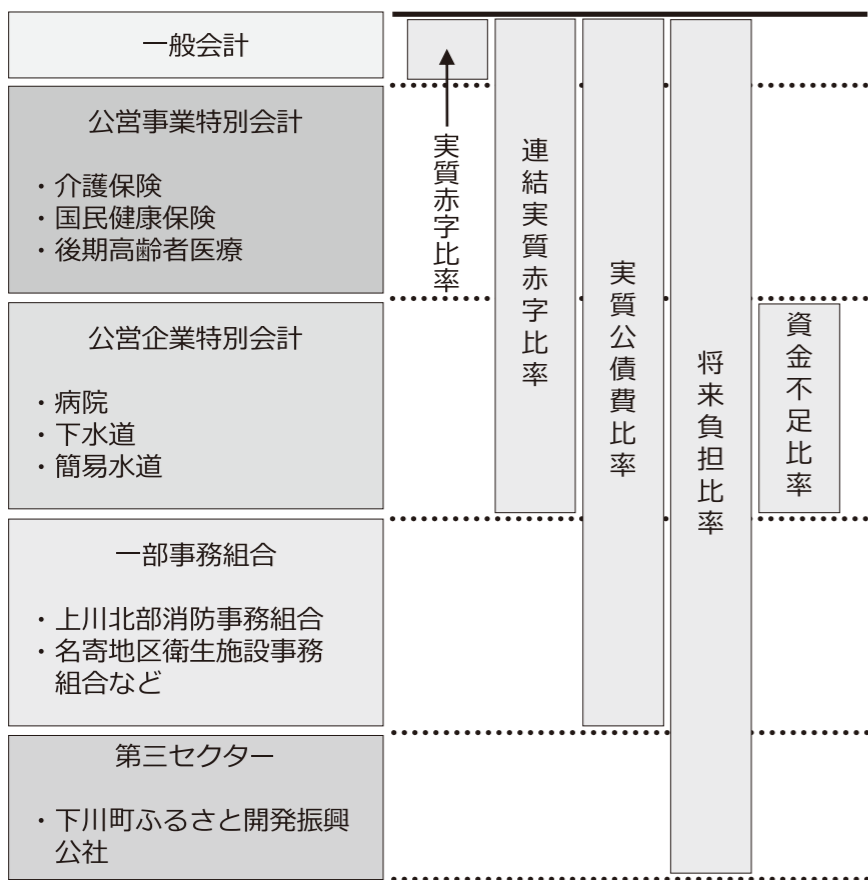
平成29年度決算に基づく各比率の算定結果（単位 %）

各比率区分	算定結果	イエローカード	レッドカード
		早期健全化基準	財政再生基準
① 実質赤字比率	-	15.0以上	20.0以上
② 連結実質赤字比率	-	20.0以上	30.0以上
③ 実質公債費比率	3.6	25.0以上	35.0以上
④ 将来負担比率	37.2	350.0以上	
⑤ 資金不足比率		20.0以上	
・病院	-	「-」は、赤字や資金不足が発生しないため、比率は算定されません。	
・下水道	-		
・簡易水道	-		

各比率の年度別の推移（単位 %）



各比率の算定の対象範囲



※地方交付税  
市町村間の財源の不均衡を調整し、どの地域に住んでも一定の行政サービスが受けられるよう国から交付されるお金。

### 下川町を年収300万円の家計に例えてみました

- ① 実質赤字比率  
給料などの収入が、生活費やローン返済額などの支出を上回り「黒字」になりました。
- ② 連結実質赤字比率  
同居する全ての世帯と合わせても、収入が支出を上回り「黒字」になりました。
- ③ 実質公債費比率  
年間の借金返済額は、10万8千円になりました。（年収300万円×3.6%）
- ④ 将来負担比率  
借金残高は、111万6千円になりました。（年収300万円×37.2%）
- ⑤ 資金不足比率  
同居する各世帯も収入が支出を上回ったため、「黒字」となりました

お問い合わせ  
総務課 総務財政グループ  
44251101  
1101  
内線224